

代かきと 初期除草剤の注意点

4月の農作業

■代かき作業のポイント

代かきには、田んぼの表面を柔らかく均平にし田植えをしやすくする。水持ちを良くし、除草効果を高める等いろいろな役割があります。次のことに注意し作業を行ってください。

- ・耕うん作業は一定の深さ(12~15cm)で平らに、残耕のないように行う。
- ・代かきを行う際の水深は、耕うんした土壌が少し見える3~5cm程度。水量が少ない場合、代かきがしにくくなります。反対に水量が多い場合、水で土が移動して均平が悪くなります。
- ・代かきをやりすぎると土が詰まり、土壌中が酸素欠乏となり根腐れの原因となります。代かきのやりすぎには注意してください。



■除草剤を効果的に使用するために

除草剤の安定した効果を得るためには次のことが重要です。

- ①田面を均平にする
- ②代かきを丁寧にする
- ③気温の低い日は散布を避ける
- ④除草剤の使用量・使用時期を守る

また、水管理については、十分に水を張った状態で除草剤を散布し、散布後は7日間落水やかけ流しをしないようにしてください。田面が露出しないことを心掛けて水を十分に確保することが安定した効果を得るために重要です。

農薬使用の際は必ずラベルを確認し、使用基準を守って使用しましょう。基準通りの散布をしなければ、出荷ができなくなります。安全で安心な水稻栽培に取り組むため、下記の基準通り除草剤を使用してください。

■水稻初・中期除草剤使用基準

1回処理剤

■パットフルエースLジャンボ (ジャンボ剤の場合) (1袋 10パック入り)

〈使用基準〉

- ・10a当たり10パック使用
- ・田植後1~7日(ノビエ2.5葉期)まで
- ・使用回数：1回まで
- ※風の強い日は避けて散布する



■トップガンGT1キロ粒剤51 (粒剤の場合) (1袋 1kg入)

〈使用基準〉

- ・10a当たり1kg使用
- ・田植時~9日(ノビエ3葉期)まで
- ・使用回数：1回



2回処理剤

(1回目)

■ショキニーフロアブル (1本 500ml入り)

〈使用基準〉

- ・10a当たり500ml使用
- ・田植時~田植後3日(ノビエ1葉期)まで
- ・使用回数：1回

※注意事項

代かき時には使用できません



(2回目)

■マメットSM1キロ粒剤 (1袋 1kg入)

〈使用基準〉

- ・10a当たり1kg使用
- ・田植後15日~30日(ノビエ3.5葉期)
- ・使用回数：1回



農薬使用の際は必ずラベルを確認し、使用基準を守って使用しましょう。

各営業部経済センターおよび農機センターは、農繁期間中(4月~)の土曜日・日曜日・祝祭日対応を行っております。お気軽にご利用くださいますようお願いいたします。(一部当番対応)

裏面は雑草図鑑 ホトケノザ・ハハコグサを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.300 平成28年 4月12日発行

雑草図鑑 ホトケノザ・ハハコグサ

4月の農作業

ホトケノザ

畑地や荒地、土手、道端など、広い範囲に生育する越年草。種子で繁殖する。半円形の葉が茎を取り囲む様子が「仏の蓮座」に見立てたことが名の由来。春の七草のホトケノザは本種ではなくキク科のタビラコのこと。しばしば大群落をつくり、一面を紅紫色に染める強害草である。多くは秋に発生し幼苗で冬を越すが、春に発生するものもある。幼苗期には、同時期に生えるオオイヌノフグリに似るが、ホトケノザは茎が細長く伸び、やや赤みを帯びることが多い。春あたたかくなると株から四角柱状の茎が伸び、草丈10~30cmになる。葉は対生し、鈍い鋸葉がある。茎の下部の葉には柄があるが上部の葉には葉柄がなく、3~5月に茎上部の葉腋に唇型の紅紫色の花を数個、密に輪生する。



ホウレンソウ畑のホトケノザ



ホトケノザ(花)



ホトケノザ(生育初期)

防除のポイント

種子を発生させないよう丁寧に刈り込みを行う。発生前の秋には土壌処理剤を散布し、発芽を抑える。発生後は、移行性の茎葉処理剤ラウンドアップマックロード(作物によって使用方法が異なるため要確認)を生育期に散布する。

ハハコグサ

畑、冬の水田、道端、庭などいたるところに発生する越年草。種子で繁殖し、日当たりのよい場所を好む。種子には冠毛がついており、風によって広く散布される。9~10月頃に発生し、根出葉がロゼットの状態で越冬する。春の七草の一つオギョウ(ゴギョウ)で、茎葉の若いものを食用にする。幼植物の頃から茎葉ともに白い綿毛をかぶっており、全体的に白く見える。春になるとやわらかい茎を伸ばし急速に大きくなる。草丈は10~30cm。茎は株元から分枝し数本が直立。葉腋から少数の枝を出す。茎につく葉はへら状で先が丸く、互生する。茎の先端に数十個の黄色の頭花をつける。それぞれの頭花ごとに、中心部に筒状花の両性小花、その周りに雌性小花をつけ、両方とも結実する。



圃場に群生するハハコグサ



ハハコグサ(生育初期)



ハハコグサ(生育中期)

防除のポイント

冠毛の付いた種が風に飛ぶと広範囲に増殖するので、種を形成する前の開花期に刈り取るか、すき込む。発生後は、移行性の茎葉処理剤ラウンドアップマックロード(作物によって使用方法が異なるため要確認)を生育期に散布する。

※農薬使用の際は、使用方法・使用時期をよく確認して使用しましょう。

裏面は水稻除草剤を掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.300 平成28年 4月12日発行